おんせんキャンパス
～Onsen Campus～

未来は、つくれる。
KATARiBA
Shape the Future

10TH ANNIVERSARY

2025

Message

雲南市教育委員会　教育長
小田川　徹哉さん

安心感と自信を生み出す場

平成27年に雲南市教育委員会と認定NPO法人カタリバの協働により設立しました雲南市教育支援センターおんせんキャンパスが、関係の皆様方のご尽力により10周年を迎えることができましたこと、厚くお礼申しあげます。

全国的に児童生徒の不登校は増加傾向にあり、令和5年度の調査結果では不登校の小中学生が34万人を超えました。雲南市においても学校に行きづらさを感じる児童生徒は増加しています。そんな中、おんせんキャンパスは学校以外の居場所として存在意義が増してきています。利用する児童生徒にとって、様々な活動体験、自分に合った学習方法、友達や先生とのコミュニケーションを通して、安心感と自信を生み出す場となっています。

これからもおんせんキャンパスでは子どもたちの思いや生き方に寄り添い、保護者、地域、学校と連携して子どもの成長を支えていきたいと思います。

雲南市教育委員会　元教育長
土江　博昭さん

子どもたちのエネルギーに

「おんせんキャンパス」が開設10周年という大きな節目を迎えられ、これまでの地道な取り組みが大きな成果となっていることに心からお祝いとお喜びを申し上げます。

雲南市教育支援センターとしての大きな実績は、雲南市教育委員会、認定NPO法人カタリバの皆様をはじめ、指導者、支援者の皆様、関係者の皆様の日々のご尽力の賜物であると敬意と感謝を申し上げます。

雲南市合併以来、不登校対応は、大きな課題であり、雲南市教育委員会としては「不登校を出さない学校づくり」「楽しい学校づくり」を重要施策として「おんせんキャンパス」を拠点に不登校対応が展開されてきました。この10年間の成果は、「おんせんキャンパス」が保護者、学校、地域、行政との連携・協働を軸にされ、子どもたち一人ひとりに、寄り添い、伴走者としての温かい支援が子どもたちのエネルギーにつながっていると思います。

全国から注目されている居場所が、今後一層多様な学びの場になることを願ってやみません。

認定NPO法人カタリバ代表
今村　久美

もうひとつの学校

10年前、ある校長先生がこうおっしゃいました。「不登校という難しくてとても大事な課題を、NPOの方々に任せるわけにはいかない」この方は、校長自ら不登校のお子さんをなんとか支えられないかと、縦横無尽に頑張っていらっしゃる方でした。ただ、当時、100人ほどいた不登校の子どものうち、支援の輪につながっていたのは、ほんの数名。取り残された子がたくさんいました。

雲南市民とよそ者のカタリバメンバーが集い、ワンチームとして不安の中で歩みを始めたおんせんキャンパス。スタートの日、利用者はゼロ。当然です。どのように告知をしたらいいか、わからないでいました。「学校の先生方に信じてもらえるだろうか」「おんせんキャンパスなら、うちの子を任せられると保護者に安心してもらえる日が来るだろうか」

10年経ち、今では雲南市の子どもたちの、当たり前の「もうひとつの学校」になりました。これまでのたくさんの子どもたちや保護者の皆さんの涙が、行政・学校・おんせんスタッフ、そして地域を育ててくれたのだと思います。

おんせんキャンパスがわかる１０のこと

01 官民連携

おんせんキャンパスは、**雲南市教育委員会**と**認定NPO法人カタリバ**が**協働で**運営する**教育支援センター**です。学校の先生方ともこまめに連絡を取り合い、情報交換会を行っています。
⇒P3～10,15

02 その子のペースで活動できる

おんせんキャンパスの利用と学校登校、家で休む日、また集団活動、個別活動などを子どもが自分で選び、計画を立てられるよう伴走します。
⇒P15

03 多様なプログラム

体育館やグラウンド、豊富な自然と恵まれた環境を生かし、子どもの興味関心や社会性を育む様々なプログラムを実施しています。
⇒P8,10,11,12

04 地域交流

木次町のみなさんと郷土料理づくりやお茶会、軽スポーツといった貴重な体験とあたたかい交流をさせていただいています。
⇒P11,12,16

05 スタッフの多様性

教職経験者だけでなく、他分野の業種経験者も入ることで、プログラムの開発や子どもとの活動、家族支援などの幅が広がります。
⇒P17,18

06 学校・家でのサポート

ご家庭から出にくい、もしくは学校の別室でひとりで過ごすことが多いという子どものもとへスタッフが出向き、一緒に活動しています。
⇒P13

07 家族まるごと支援

子どもだけでなく、保護者さんがひとりで悩まないような関わり、つながりを意識しています。
⇒P13

08 ユースサポート

中学卒業後、高校に進学してからも状況を把握し、必要に応じてサポートを行っています。
⇒P14

09 卒業後の関わり

おんせんキャンパスでは、卒業後も必要なときにサポートができるよう、ゆるいつながりを大切にしています。
⇒P14

10 他機関と連携

子どもやご家族の様々な困りごとやニーズに対応、サポートしていくため、教育だけでなく福祉や医療、発達支援などの機関との連携も進めています。
⇒P16

HISTORY

開始期

2015
6月
|
2016

開所

【当時の目的】

学校・保護者・行政・地域との協働を通して不登校児童生徒の学校復帰・継続登校・進路実現を図る

【初期の事業】

- おんせんキャンパスでの活動
- フレンドクラス（高校生年代、未就学者）
- 家庭訪問支援
- 学校訪問支援
- 保護者支援
- 研修会の実施（スタッフ、教職員向け）
- 学校連携、行政連携

開始期は学校や保護者からの認知度が低く、「おんせんキャンパスは、何をしているところかわからない」という状態。おんせんキャンパスから学校や保護者へこまめに連絡をしたり、学校職員へ事業説明を実施したり。また、地域行事への参加や手伝いをするなどして、地域の方とのつながりをつくっていきました。

【当時の目標】

①おんせんキャンパスでの子どもの自信と安心

・**自信**ー「やればできる」「やりきった」をねらった学習支援とキャリア発達支援

・**安心**　ー　保護者・学校・スタッフとの関係構築とナナメの関係を利用した場づくり

②保護者の安心と当事者意識

・**安心**ー保護者会や相談体制の充実による、不安感の軽減

・**当事者意識**ー子どもへの接し方や学校との関わり方を考える機会の提供

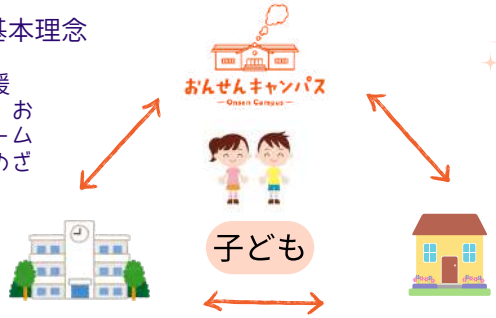
③学校・行政との関係構築とチーム支援

・**関係構築**ー活動の周知や思いの共有、支援のあり方について関係者と考える機会の創造

・**チーム支援**ー中長期的な支援計画作成と役割分担の明確化、支援内容の見直し

おんせんキャンパスの基本理念

子どもを中心にして、支援者、伴走者（家庭、学校、おんせんキャンパス）がチームとして支援できる状態をめざしてきました。



memory

卒業生の思い出

この場所と出会わなかったら学校に行けてなかったと思います。
たくさんの人と関わり自分の中の成長にも繋がり、私にとって青春と言える場所です。
あれから10年経ちますが、おんせんキャンパスで過ごしてたくさんの方と関われたことは私の中で今でも宝物です。

卒業生の思い出

印象に残っているのは、スポンジテニスをしたこと、川で釣りをしたこと。おんせんキャンパスが人生の分岐点になった。

保護者の思い出

思い出は、保護者会で自分の経験を皆さんに聞いてもらったこと。保護者会やスタッフとの関わりが当時の自分の心の支えになっていたと思います。

卒業生の思い出

印象に残っているのは、走って逃げたこと。おんせんキャンパスと出会えてよかったです。

スタッフの思い出

思い出すのは、立ち上げの頃にいろいろ行事などを一緒に考えたことです。高木弘明

お米の収穫がかなり印象に残っています。坂本佳苗

2015
6月
|
2016

PROGRAM

開始期は、学習支援、キャリア発達支援・体験活動という
枠組みでプログラムを行っていました。

学習の機会提供

【当初から継続】

個別の学習支援

【新設】

学習目標・計画

検定チャレンジ

対話を大切に学習支援

できることを認める、できないことに挑戦

「どうせ無理」⇒「なんかできそう」

「教える」＋
「支える」「見守る」

グループ学習

漢検　・実験　・ICT

みんなで挑戦！

└スタッフが挑戦する姿を見せる

└スタッフが学びを楽しむ

キャリア発達支援

【当初から継続】

農作業・ものづくり

体育の充実

【新設】

地域行事の参加

自然・設備を生かして、楽しむ！挑戦する！

地域の方々・保護者と触れ合う！

合宿の実施

└年数回の宿泊プログラムの開発

利用者数の推移

memory

卒業生の思い出

あの時、おんせんキャンパスに行かなければ今でも家の中から一歩も出ることもなく、何も経験できず自信のないままひたすらに沈んだ日々のままだったと思います。だからおんせんキャンパスで出会えた皆さんには本当に感謝してもしきれないし、おんせんキャンパスで学んだことなどが今の自分にとってかけがえのないものになっていると感じています。

卒業生の思い出

印象に残っているのは、田植え体験。おんせんキャンパスがなければ、今の自分はないと思います。

スタッフの思い出

予測のつかない毎日の中、必死に考え試行錯誤した日々でした。おんせんキャンパスで出会った子どもたちはたくさんのことを教えてくれた「先生」です。小林美絵

思い出は保護者カタリバ、みんなで校舎の雪かき、お昼の卓球。自分の強みや弱み、大事にしたい軸を確認できました。竹内庸公

印象に残るのは市議さんへの対応と、次年度の予算獲得。海外よりも衝撃的な経験でした。荻野晶子

みんなでピザ釜を作ったことや、魚釣りが好きな子どもさんと魚釣りしたことなど、情景が浮かびます。また、保護者会ではお母さんがとても悩みながら、苦しい思いを涙ながらに話されたことが印象に残っています。周藤明美

安定期

2017
|
2019

学校との連携強化

少しずつ認知が高まり、利用者も増加。子どもがおんせんキャンパス中心になることが、学校の先生の思いとずれることもあり、先生方との信頼関係を築くためのコミュニケーションを心がけました。

保護者支援では、専門家講座や父親参加イベントも実施。高校生年代の支援では、不登校からのひきこもりを軽減するため、学習補助や相談、掛合分校での相談支援などを行いました。

【当時の目的】

不登校児童生徒の集団生活への参加、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・援助を行うことにより、学校復帰を支援し、不登校児童生徒の社会的自立に資する

【安定期の事業】

・子ども支援
└学習支援
└体験・体育活動・グループワーク
└教育相談
└学校アウトリーチ

・高校生年代の支援
└フレンドクラス
└掛合分校での相談支援

・保護者支援
└保護者会
└保護者カタリ場
└個別相談・面談

・学校連携
└活動報告
└支援会議
└担当者研修

・協働体制
雲南市教育委員会、子ども家庭支援センター(すワン)、専門機関との協働体制を構築し、子ども支援、保護者支援、学校連携の質を向上する

【当時の目標】

①子ども支援
一人ひとりにあった支援と成長機会の強化

・子どもの強みや困ったときの対処法を一緒に見つけ、自身で人に伝えられるように支援をする
・子どもが多様な生き方や考え方を知り、他者理解や世界が広がるような機会をつくる
・困難なことにも向き合い、挑戦できるプログラムを提供する

②保護者支援
未然防止・早期対応に向けた、保護者への周知や理解の強化

・幅広く、雲南市全体におんせんキャンパスの周知と理解を広げる
・母親以外の家族が参加できる機会や保護者会以外での接点の場を作る
・保護者同士の安心できる関係づくりを目的とした活動を保護者自身が主体的につくれるようなサポートをする

③学校連携
再不登校を防ぐための支援と学校連携の強化

・学校内の支援の改善・修正に向けて、一人ひとりに合った最適な支援方法を届ける
・おんせんキャンパスや校外の活動で先生と子どもとの接点を増やす
・全スタッフにより学校との関係を深めることで連携の機会を増やす

memory

卒業生の思い出

おんせんキャンパスは通う子が主役になって毎日をいきいきと過ごせる場だと思っています。おんせんキャンパスに出会えたから、毎日が嫌じゃなくなって、高校に行けて、行きたいところに就職できて、今の自分がいます。

保護者の思い出

イベントを通じて子どもと一緒に活動できたこと。

スタッフの思い出

子どもたち、保護者、スタッフ、地域の方それぞれから学ぶことがあり、雲南ならではの温かいコミュニティだなと思います。長濱彩

思い出は、体育館で子どもたちと本気で遊んだこと。仕事を通して新しい視点でものごとをみることができるようになり、とても貴重な時間でした。井上麻衣

個別最適な学びの象徴的な場所だと思います。森山裕介

短い期間でしたが、一緒に学習したりスポーツを楽しんだりしたことが、今となってはいい思い出です。加納諭高

保護者の思い出

とても大切な時間だったと思います、と同時に苦しく辛い時間でもありました。今はもっとこうすれば良かったと後悔も感じます。あの頃があったから今の幸せがあるとも思います。

2017

|

2019

【支援の3段階】

すべての活動で、一人ひとりの状況に応じたスモールステップを徹底

安心

自分の存在が認められる居場所(場所・人)がある

一人ひとりに合ったペース、きめ細やかな個別対応、好きなことをじっくりやる　など

自信

小さな成功と失敗を繰り返してできることが増える

学習内容が増える
人と関わる
体力がついてくる　など

一歩踏み出す

新たなことにチャレンジする

テストに挑戦する
学校行事に参加する
登校を開始する　など

この時期はスタッフ間で話し合いを重ね、子どもと関わる上でのスタンスや行動の判断基準となるガイドラインをすり合わせました。

スタッフの行動指針

安心・安全な場をつくる

一人ひとりの背景の理解と個性を尊重します。子どもに応じて声かけや言葉遣い、関わり方を工夫します。校地内の整理整頓と安全管理に努めます。

自信につなげる

子どもたちの興味・関心・強みを活かします。一人ひとりに応じたスモールステップを意識して活動をつくり、子どもたちの努力や成長の過程を大切にします。

共に一歩踏み出す

子どもたちのやってみたいを応援し、チャレンジの場や機会をつくります。子どもの可能性を信じ、寄り添い、励まします。

3つの大切な行動

楽しんでいる姿、背中を見せる

学習やどんな活動でもスタッフが全力で取り組み、楽しむ姿を見せます。

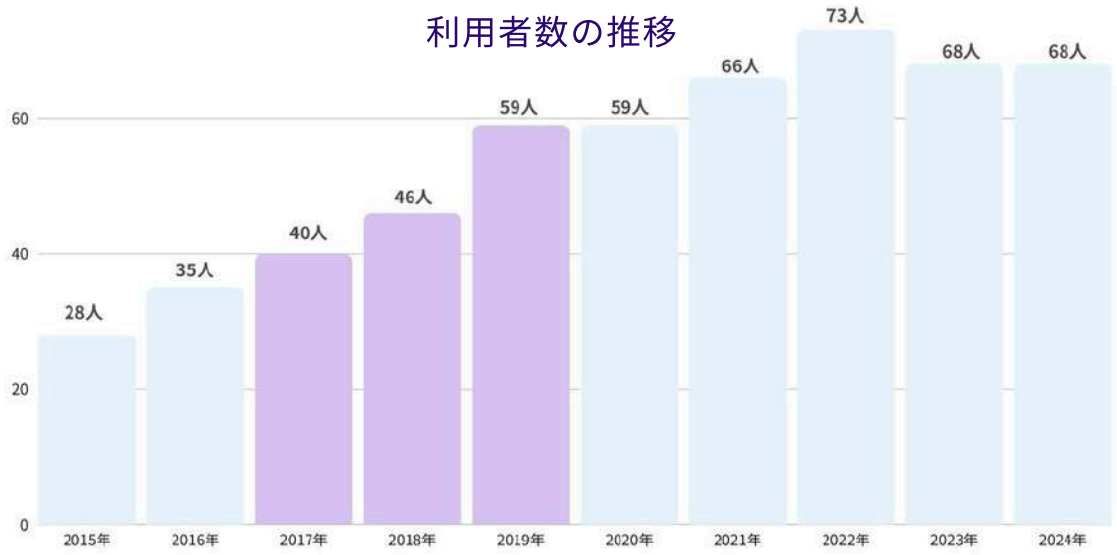
笑顔で挨拶、感謝を伝える

関係するすべての人に「来てよかった」「また来たい」と思ってもらえるように接し、感謝の気持ちを伝えます。

隣に相手がいると思って話をする

いつどんな時、どんな相手にも敬意を持ちます。その場に本人がいなくても、本人や家族が聞いて嫌な気持ちにならないような言葉で話します。

利用者数の推移



memory

卒業生の思い出

思い出は色々ありますが、印象深いのは合宿です。校舎に泊まることへの新鮮さもありましたし、自分たちで買い出しをして、ご飯を作って食べる、みんなでアナログゲームをするなどとても楽しかった記憶があります。

最初の頃は緊張や不安でいっぱいでしたが、職員の方や、他の子達と関わったことや様々な経験をさせてもらったことが、今の自分に生かされていると感じています。

保護者の思い出

最初におんせんキャンパスにうかがった時に温かく迎えてもらって嬉しく感じました。子どものペースに合わせて、勉強や行事をすすめてもらえて良かったです。

卒業生の思い出

印象に残っているのは、みんなでゲームをしたこと。おんせんキャンパスと出会えてよかったです。

保護者の思い出

思い出すのは、雪の中をすたすた歩く娘をスタッフが大変そうに追いかける姿。娘はおんせんキャンパスで趣味の合う友達ができたようで、本当に良かったです。

保護者の思い出

どうしていいかわからない時に、娘の「何かしたい」という気持ちに応えていただける場所を見つけたような気がしました。

発展期

2020
|
2022

社会的な自立をめざす
学びの個別最適化へ

コロナ感染症対策から
オンライン支援スタート

2019年10月25日、文科省が「不登校支援は学校復帰よりも社会的自立が目標である」という新方針を通知。おんせんキャンパスも2020年度の目的、目標を「子どもの社会的自立」と定めました。

2020年3月、コロナ感染症拡大防止のための休校に合わせてオンライン支援をスタート。Zoomで家庭とつなぎ、学習、コミュニケーション、遊びを組み合わせたプログラムを実施しました。以降、子どもの個別最適化の選択肢としてオンライン支援も取り入れています。

【当時の目的】

①児童生徒の社会的自立に資する
②雲南市の教育環境の発展に資する

【発展期の事業】

・子ども支援（小・中学生）
　①おんせんキャンパス活動
　②アウトリーチ
　　└家庭訪問、学校の別室登校支援
　③オンライン支援

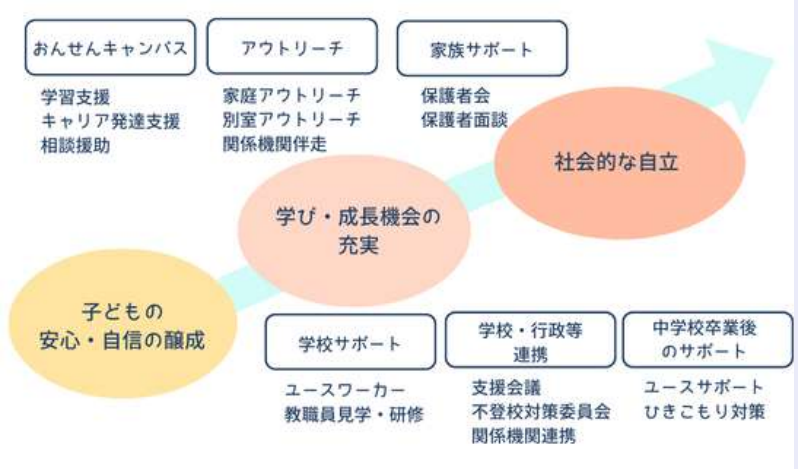
・ユースサポート（高校生年代）
　└居場所開催　週2回
　└相談援助、学習支援、スポーツ活動等

・家族支援
　└保護者会
　└専門家講座・ペアレントトレーニング
　└個別相談・面談

・学校支援
　└ユースワーカー派遣
　（校内、家庭訪問による生徒への相談援助）

【当時の目標】

①児童生徒の社会的自立に資する
⇒おんせんキャンパスの活動やアウトリーチ、家族サポートなど、テーマで各事業をグループ化し、それぞれのグループで目標設定をする



②雲南市の教育環境の発展に資する
⇒雲南市の個別対応が必要な子ども（不登校・不登校傾向）の学びの個別最適化、自立化を実現する

・学びの状況把握と評価システムの開発
・子どもを中心として、学校教育、特別支援教育、教育支援センター、社会教育、福祉サービスなどが連携する体制づくり
・学びの場や機会の選択、組み合わせを可能とする

memory

保護者の思い出

スタッフさんや友達と、とても楽しそうにクッキングや活動をしていたことが印象に残っています。

中学校卒業よりも、おんせんキャンパス卒業と言ってもいいくらい、安心して過ごせる場所だったと思います。今も、ボランティアとかいきたいなと話題にでます。

卒業生の思い出

稲刈り。とても大変で途中で退場してしまいましたが、みんなで楽しく話しながら稲を刈ってたあの雰囲気がとっても印象的でした。

おんせんキャンパスと出会っていなければ、毎日をあんなに楽しく過ごすことも、今の友達にも出会えてなかった。高校にも行けてなかったと思います。
今の僕があるのは全ておんせんキャンパスに出会ったからだと思っています。

保護者の思い出

英語の勉強で、娘が好きなアーティストの歌詞を訳しながら勉強したこと。受験勉強を一緒にして、関わってくださった事が本当に嬉しかったです！受験当日も受験会場にも来て下さって本当に本当に心強かったと思います。

保護者の思い出

不登校だった息子がおんせんキャンパスでボランティアをしている姿を見れたこと。

2020

|

2022

オンライン支援

コロナ感染症対策として2020年３月の休校時にオンライン支援を立ち上げ、休校が明けてからも、子どもがおんせんキャンパスに来所できない時や、悪天候などで休校になった時、また保護者向けの専門家講座にもオンラインを活用してきました。

プログラム例

朝の会	健康チェック、予定立て、ストレッチなど
活動	学習サポート
	個別トーク
	サークル（クイズ、イラスト、遊びなど）
	フリー（オンライン教材に取り組む、映画鑑賞など）
終わりの会	振り返り、テーマトーク、ストレッチなど

2022年度～ PROGRAM

それまで単体で目標を立てて動いていたプログラムをグループ化し、グループごとに目標を立てるようにしました。

学習の個別最適化

・学習支援
・進路学習（中3対象）
・room-K（認定NPO法人カタリバのオンライン支援）連携

【2022年度の最上位目標】
自分の最適な学び方に気付き、学習を続ける

心身の健康

・こころとからだ
・つくってたべよ♪（食育）
・スポーツ

【2022年度の最上位目標】
健康についての知識・体験・対話のきっかけを、心身の発達や思春期心性に配慮して届ける

地域コラボレーション

・キャリア学習
・地域活動
・ユースサポート

【2022年度の最上位目標】
幸せの種まき

自己理解・好き・関心の深まり

・グループワーク
・サークル
・わくわくプログラム

【2022年度の最上位目標】
自分の好きなことを知る・広げる場を提供する

利用者数の推移

memory

卒業生の思い出

思い出は通学合宿。おんせんキャンパスのおかげで出来ることが沢山増えて、将来やりたいこともできたし、学校とかバイトとか色々環境も周りの人も変わっていくけどおんせんキャンパスはいつも変わらず安心できる居場所だなって思ってます。

卒業生の思い出

思い出はお菓子作り、ペットボトルロケット、かめ吉、親友ができたこと。あの頃に戻りたいと思うくらい楽しい居場所だった。

卒業生の思い出

思い出は麻雀。おんせんキャンパスでやってみたことから、己の得意を知ることができてよかった。

保護者の思い出

合宿に楽しそうに出かけて行った我が子の笑顔。一人ではないと勇気づけられた場所だと感じます。

保護者の思い出

子ども3人とも利用期間は嫌がったり、イマイチな感じもありましたが、少しずつ時間をかけてスタッフさんがそれぞれ対応してくださり、楽しい事も多くなったようです。学校では体験できない事もあったりするので、おんせんキャンパスを利用できてよかったと思っています。

2023
|

拡張期

官民連携モデルとして

2023年、文科省のCOCOLOプラン『誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策』で、①「学びの多様化学校（不登校特例校）」と②既存の学校内への「校内教育支援センター」それぞれの設置を推し進め、③教育委員会等が設置する校外の支援機関である「教育支援センター」の機能を強化し、同センターが官民を超えた支援ネットワークの要となり、不登校支援の地域拠点としての役割を担う構想が示される。

おんせんキャンパスも、官民連携の教育支援センターのモデルとして、他自治体からの視察が増加。認定NPO法人カタリバの不登校支援事業のひとつとして発信、他自治体の事業サポート役も担うようになりました。

【目的】2020年度から変更なし

①児童生徒の社会的自立に資する
②雲南市の教育環境の発展に資する

【継続事業】

・子ども支援（小・中学生）
　①おんせんキャンパス活動
　②アウトリーチ
　　└家庭訪問、学校の別室登校支援
　③オンライン支援

・ユースサポート（高校生年代）
　└居場所開催　週2回
　└相談援助、学習支援、スポーツ活動等

・家族支援
　└保護者会
　└専門家講座・ペアレントトレーニング
　└個別相談・面談

・学校支援
　└ユースワーカー派遣
　　・校内、家庭訪問による生徒への相談援助
　　・学校職員、SC、SSWとのケース会議へ参加
　　・児童・生徒理解シート作成、補助

【開発事業】2024年度～

①校内教育支援センター実証
　※校内教育支援センターの設置に向けたトライアル
　・別室登校の実態
　・学校内職員、学びいきいきサポーターとの連携
　・ガイドラインの作成

②ユースサポート事業の拡充検討
　※高校生年代の若年層ひきこもり対策との連動を仕組み化
　・アウトリーチの実施
　・市内関係機関との連携
　・市内高校、宍道高校との連携

③雲南市内　他機関との連携、子どもの居場所との接続
　※子どもの居場所、支援者となる団体とのネットワークづくり
　①おんせんキャンパスではできないプログラムを場所を借りて、または、講師依頼をして実施（デジタル教室、地域学習など）
　②家庭アウトリーチ事業を活用する。家から出る一歩目の活動場所、居場所

④教育支援センターモデル展開
　※雲南市モデルの全国展開
　・視察、研修プログラム開発
　・研修、イベント実施

⑤身体医学研究所うんなんとの共同研究
　※不登校・不登校傾向の児童生徒メンタルヘルスに対する継続的な支援プログラム確立のための基礎的研究（2024~2027）

memory

保護者の思い出

親と離れる事にとても不安を持っていましたが、バス券をもらい、一人でバスに乗って帰るのは「カッコいい」と言い、すんなりバスで帰るようになったこと。

最近、まだ緊張はするけれど「楽しい」「行くのが楽しみ」という言葉を聞くようになり、本当にひとつの居場所になったんだなと感じています。

保護者の思い出

学校に行けなくなって家にこもって暗い表情だった子どもがおんせんキャンパスに行くようになって、だんだんと笑顔になってきたのがとても印象的でした。

学校に行かれなくなった子ども、それについて悩んでいた自分たちを救ってくれ、とても感謝しています。

保護者の思い出

娘からスタッフの方に話しかけられるようになったことを面談で聞けて、とても嬉しかったです。

保護者の思い出

親や家族以外の方達と関わる機会が出来て良かったです。
活動も、子どものペースでやりたい事をやらせていただけるので楽しく通えています。
子どもの自主性や、やりたい！の気持ちを尊重していただけるので、ありがたいです。

2023
|

PROGRAM

グループ内外での横連携や新たなプログラムの開発など、内容の充実、広がりが出てきました。

学習の個別最適化

・個別の学習サポート
＋
・ちょこっとタイム

毎日学習時間内の10分間、子どもたちが普段取り組まない教科を、楽しく学び、体験できる時間を設ける

・スタッフ授業

月1回スタッフが行う授業を通して少人数での授業体験を提供

・〇〇名人

漢検や都道府県など、子どもが〇〇名人を目指すことで、学習を楽しい・これもやってみたい！という思いになることを期待

心身の健康

・それぞれの授業
＋
・同じテーマの横展開

睡眠、ストレス、整腸などのテーマを心の授業、ヨガ、食育、スポーツの各分野でアプローチ

・性教育

半期に1回程度、スタッフや外部講師による性に関する授業を実施

・こころの教材横展開

こころの「偏愛マップ」
⇒キャリアの授業で利用

・食育×地域交流
・お菓子づくり
（サークル、個別活動）

地域コラボレーション

・それぞれの授業
＋
・同じテーマの横展開

防災の授業をキャリアにつなげ、夏休みに原子力館の見学を実施

・ボランティア活動の広がり

買い物ボランティアだけの関わりだった新市地区の高齢者をおんせんキャンパスに招待して交流

ユースのボランティア活動を石照庭園でスタート

・他プログラムと連携
グループワーク×地域
食育×地域
スポーツ×地域
デジタル施設での活動

自己理解・好き・関心の深まり

・それぞれの授業
＋
・わくわくプログラムのサークル展開

工作や「ギネスに挑戦」などわくわくプログラムで行ったものを平日のサークルの時間にもできるようにコーナーを設置

・グループワークの横展開

自己紹介ワーク
⇒地域交流の自己紹介

「ドリームマップ」「座席クイズ」等のワークシート
⇒個別対応の活動利用

利用者数の推移

memory

保護者の思い出

子どもたちが、自分達で考えていろんな事をやっているなと思います。大人にはない発想で、すごいなと思います。
おんせんキャンパスに行くことによって、子どもが社会と交流できる場ができてありがたいです。

保護者の思い出

人間関係に疲れた心を、優しく包み込んでくださって、世の中は嫌な人ばかりじゃないんだよ、ということに気づかせてもらえたと、娘にとって、そういう出会いであったと思っています。

保護者の思い出

子どもは家以外でほっと安心できる場所ができました。子どもを１人家に残すのが心配でしたが、夕食時笑顔でおんせんキャンパスの話をする姿を見て嬉しかったです。

卒業生の思い出

合宿。自分を見つめる、知るための機会になった。

今は高校、体調と相談しながら行ってます。楽しいです。

保護者の思い出

体験利用の時から、子ども目線で安心しました！　もっと早くにおんせんキャンパスを知りたかったです。

おんせんキャンパスの1年
2023－2025年度の例

おんせんキャンパスは地域の環境を生かした様々な体験プログラムを提供しています。
同時に、地域のみなさんのご協力で田んぼや郷土料理づくりなど、貴重な体験と交流の機会をいただいています。

春

春休み開所
- パフェ作り＆映画鑑賞
- BBQ
- おんせん地区探訪
  - ユースぶらり松江旅

お花見弁当づくり
登山遠足（船通山）
田植え
畑の苗植え
校外スポーツ（スポーツ吹き矢）
社会見学（ダムの見える牧場）
山椒とり
デジタル機器の創作体験
地域交流：グラウンドゴルフ

地域交流：笹巻づくり
新市交流会
校外スポーツ（水泳）
夏まつり
通学合宿（1泊2日×6月、7月）

夏休み開所
- 映画鑑賞
- 鮎のつかみ取り
- 工作
- すいかわり＆フルーツポンチ
- 川遊び
- 社会見学＆スポーツ・クラフト体験
- ゲーム大会
- 流しそうめん
- ひなたぼっこ×おんせんキャンパス合同イベント
- スポーツ大会

夏

秋

稲刈り
脱穀
社会見学（スーパー）
収穫祭
石照庭園ライトアップイベント
ふるさとまつり
通学合宿（2泊3日×10月、11月）
地域交流：ミニ運動会
おやじの会主催BBQ

クリスマス会
冬休み開所
- ゲーム大会
- 韓国のお正月料理
- 映画鑑賞
- 一品もちより鍋
- かるた大会

餅つき
雪山遠足
（スキー、スノーボード、そり遊び）
社会見学（美容室）
味噌づくり体験
突撃お宅訪問
（地域の方へ感謝を伝えに行く）
地域交流：遊び＆お茶会
納会

冬

孤立を防ぎたい！おんせんキャンパスの取り組み

- アウトリーチ
- 家族支援

アウトリーチ

おんせんキャンパスではただ待っているだけでなく、子どものいる場所へ会いに行く「アウトリーチ」を重視しています。

01　家庭アウトリーチ

家の外へ出ることや学校等への利用に困難さがある子のもとへスタッフが行き、話したり、遊んだりして関係を築いた後、その子と相談して外出したり、登校伴走したりします。

02　別室アウトリーチ

別室登校をしている、これから始めようとしている子のもとへスタッフが行って話したり、遊んだり、学習のサポートをしたり、授業や登校の伴走をしたりします。

03　専門機関への相談伴走

本人やご家族と相談先とのつながりづくりや定期的、継続的な相談のため、地域の相談機関や医療機関への同行や、各機関との連絡、調整を行っています。

家族支援

保護者がひとりで困りごとを抱えることのないよう、おんせんキャンパスでは次のつながりづくりに努めています。

・ヨコのつながり　孤立防止
ー保護者同士のつながり

・タテのつながり　知識増
ー関係機関とのつながり

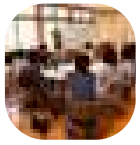
・ナナメのつながり
ーＯＢ保護者（メンター）の活躍の場の創出

・ゆるやかなつながり
ー孤立はしていないが、何かあればつながる関係

01　保護者会

保護者会では、ＯＢ保護者を中心に保護者同士が話をする中で「うちだけではなかった」という安心感を持てるような場づくりをしています。内容はフリートーク、プチ講座、ＯＢ保護者や卒業生の体験談を聞く。同じ作業をする中で自然と会話がはずむよう、手芸や寄せ植え等のプログラムも用意しています。

また、父親同士が気軽に話せる「おやじの会」や、お母さんだけの食事会なども開催しています。



02　相談・面談

おんせんキャンパスでは、保護者からの相談に随時応じています。利用者とは月１回程度定期的に面談してお子さんの様子を確認、関わり方を相談します。
また、月１回の保護者会では利用登録がない方の個別相談も受け付けています。

03　講座

子育てのヒントや、子どもの発達、精神面、思春期の子どもの特徴などを知る機会として、年3回の専門家講座や、連続講座ペアレントトレーニングを実施しています。

保護者の思い出

学校にも、おんせんキャンパスにも行かない子のために、自宅に来て応援してくださいました。こちらの状況を理解しようとしてくださり、提案もしていただきました。

子どもが学校へ行かないことを選択しても、まだ行く場所がある、スタッフさんたちが非難せず迎えてくれる場所がある、ってことが親の救いになりました。

印象深いのは、保護者会での体験談。どなたの体験談を聞いても毎回やっぱり子どもは宝だと思えるし、早く帰って我が子に会いたいと思えます。
信頼できる他人ができたことが、今も支えとなっています。

メンターさんご自身の過去の体験談が聞けたこと。同じような環境の保護者さんと仲良くなれ、スタッフさんも自分の話を親身に聞いてくださるので、大変嬉しいです。

ペアトレなど、親のサポートも色々な形でしてくださったこと。様々なご家庭の様子を見聞きするうちに、みんな悩み模索しているんだと分かり、先の見えないツラい時期を乗り越えられたと思います。

保護者会での体験談を聞いた事。私自身成長でき、子どもと向き合えとても感謝しています。

次へつなげたい！おんせんキャンパスの取り組み

- ユースサポート
- 卒業後の関わり

ユースサポート

高校生年代の居場所と学習サポート。また、地域の人とのふれあいを通して自信を回復し、自分の目標に向けて行動するきっかけを届けています。

地域の施設での学習と活動
⇒地域社会との繋がりをつくる
・雲南市内の地域活動への参加
・さまざまな体験機会の提供

雲南市役所、社会福祉協議会との協働
フリースペースの参加、eスポーツクラブの実施
⇒就労支援に繋げる、地域で居場所をつくる
・困ったときに頼れる地域資源とのつながり
・地域内で気楽に利用できる場の提供

子どものすがた

安心	・ユースサポートの活動に定期的に参加できる ・活動を楽しいと感じている
自信	・スタッフの伴走の中で目標を立て、行動に移すことができている(活動の中で小さい成功体験を積むことができている)
一歩踏み出す	・ユースサポートの先に向けて、行動を開始する (例) ・レポート提出ができたので、学校に行って、テスト受けるために行動する

利用者の思い出

私は学校に行けなくなってあまり外に出て人と関わることができなくなっていたので、実際に相談に行ってからおんせんキャンパスに通えるようになるには1年くらいかかりました。
はじめは、行ける時に行って1時間だけおんせんキャンパスに居るとか、少し慣れてきたら居る時間を2～3時間と増やしてみるなどと色々と頑張りました。

今でも調子の波はあるけど、自分でバスに乗っておんせんキャンパスまで行ってレポートをすることができるようになりました。
おんせんキャンパスのスタッフさんたちが、学校についての相談に乗ってくださったり、一緒にカードゲームをしたりして楽しく過ごせています。

ユースで推し発表会をしたこと。皆の好きなものや、それぞれのまとめ方が分かって良かったです。おんせんキャンパスは、色々なことを学べたり、気楽に通える居場所としてすごく助かりました。

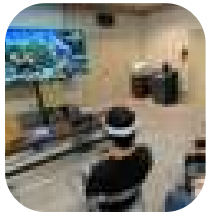
思い出は、皆と一緒に映画を見に行ったこと。
大人数で映画館に行ってからその後に感想を言いあうというのを初めて経験してそれがすごく楽しかったことを憶えてます。

おんせんキャンパスに出会う前の自分を比較してみたときに自分の言いたいことを隠さずに言えるようになったことが一つ大きな変化だと感じます。

印象に残っているのは、ユースのみんなと高校のレポートをしたり、スポーツやゲームなど様々な経験をしたこと。

おんせんキャンパスに出会う前は、これから先どうしたらいいか不安で自分に対してネガティブな印象しか持ててませんでしたが、おんせんキャンパスに通う事で自分を肯定してくれる人たちがいるんだと感じて少しずつ前向きな考えになっていくことができました。おんせんキャンパスでの思い出は今の自分の支えや原動力になっていると思います。

勉強をはじめる前にみんなでカードゲームをして遊んだこと。
レポートのことで相談できるのでとても助かります。



卒業後の関わり

中学校卒業後も、おんせんキャンパスから時々LINEなどで保護者や本人に声かけをすることで、何か困ったことがあったら相談できるような関係性を続けています。

また、卒業生がボランティアとしておんせんキャンパスに来られるを仕組みをつくることで、近況を知り、必要な時にフォローするようにしています。

ゆるやかに、けれども、いざというときに頼れる場所のひとつでありたいと思っています。

子どものペース、
自己決定を
大事にしたい！

- 個別対応
- 学習面談
- 学校連携

個別対応

おんせんキャンパスでは、子ども本人が今どう感じ、どうしたいのかを表現できるようにすることを大事にしています。そして、どうしたいのかを考えやすくするために、いくつかの提案を用意して、本人に選んでもらうことで、次の一歩につなげるよう努めています。

また、コミュニケーションの量と質の充実を図るために、3つの場面を設定して一人ひとりの状況に合わせた支援をしています。グループ活動が定着している子も体調や気持ちにより個別活動を選ぶこともあります。

	スタッフの姿勢	3つの場面
安心	個々の発達に応じた配慮をしつつ、個別に活動して安心できる環境をつくっていきます。	**個別活動** スタッフと学習やものづくり、スポーツ活動などをして関係性を築いていきます。
自信	その子の興味関心や、強味に応じたプログラム、スモールステップを設定し、小さな達成感を重ねていけるよう意識しています。	**小グループ活動** 2~3人との関わり。自習時間、調理などの体験活動、スポーツ、グループワーク、オンライン学習など。
一歩踏み出す	その子の「やってみたい！」に伴走、様々な価値観との出会い、チャレンジの場を設定していきます。	**グループ活動** 4人以上の関わり。グループ授業、遠足、合宿、職業体験、ボランティア活動、オンラインイベントなど。

学習面談

おんせんキャンパスでは、毎月子ども一人ひとりと面談する時間を設けています。担当スタッフは事前にその子が在籍する学校の行事や教科ごとの内容などを把握した上で、子どもと話します。

学校の行事への思いやテストの受け方、おんせんキャンパスでの過ごし方、学習で力を入れたいのはどれかなど、子どもの意思を聞いて相談し、その月の予定や計画を一緒に立てます。

学校連携

おんせんキャンパスは子どもの**社会的自立**を目指して（P7参照）、**子どもの権利のひとつである学びの保障**をするために、学校とこまめに連絡をとりあっています。並行して、子どもの**最善の利益**を模索しています。

その過程で大事にしているのは、**子どもの自己選択、自己決定**です。
将来の可能性を広げるための経験や選択肢は、いくつもあります。それを一方的に押し付けるのではなく、子どもの成長や心身の状態に合うステップを踏めるよう、まわりの大人が知恵を出し合うことが大事で、そのひとつとしておんせんキャンパスは学校と情報交換会を行うなどして、サポートの仕方を考えています。

「だれもが教育を受ける権利をもつ」

すべての子どもに、あらゆる差別なく公平に教育を受ける権利があります。すべての子どもが質の高い義務教育を受けられること、またその後の成長過程においても学ぶ機会を与えられていることが、保障されていなければなりません。

「意見を表す権利」

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。

ー子どもの権利条約（ユニセフの抄訳）よりー

子ども、ご家族の
居場所、頼れる場所
を増やしたい！

地域交流

他機関との連携

地域交流

地域交流は子どもたちのコミュニケーションや職業のイメージの幅を広げるとともに、地域の方の生きがいや幸せにつながる「種まき」を目指しています。

・地域の方と米づくり
・地域の方と郷土食づくり
・地域の方との遊びの会
・地域の方の職場見学
・地域の方との軽スポーツ
・地域の施設でボランティア活動

他機関との連携 で目指していること

①子どもの居場所として

・おんせんキャンパスではできないプログラムを実施するために民間団体の講師を依頼、または場所を借りることで、子どもが行きたい！と思う場所を増やす試みをしています。

・その子が家から出やすい場所の施設を借りて、スタッフが一緒に活動しています。子どもが家から出る一歩目の活動場所、その後の居場所利用となることを期待しています。

②ご家族が頼れる場所として

・医療、発達、就労など、ご家族が悩んでおられることや不安に思っておられることがわかった際、専門機関につながれるよう紹介しています。

・高校生年代のユースサポートでは本人のニーズに合わせて、ひきこもり支援ネットワーク、社会福祉協議会、ハローワーク、サポートステーションなどの関係機関への橋渡しや伴走を行っています。

他機関の方の思い出

思い出は、講演をさせてもらったこと。雲南圏域にコミットメントしようと思ったときの、貴重な橋頭堡。感謝です。
お子さん、ご家族とも人と関わることを続けてほしいと願っています。
医大前クリニック院長　飛田憲彦

スタッフ補足：飛田先生はおんせんキャンパスで年1回ほどの講演会と、月１回保護者さんの無料相談会をしてくださっている上、マンガや精神疾患関係の解説本を寄贈してくださっています。

他機関の方の思い出

利用されている皆さんがいつも笑顔なのが印象的です。
研究としてではありますが、関わりが持てたことを大変光栄に思っています。

身体医学研究所うんなん
宮下拓麻

スタッフ補足：宮下さんは不登校・不登校傾向の児童生徒メンタルヘルスに対する継続的な支援プログラム確立のための基礎的研究で、おんせんキャンパスと協働しています。

地域の方の思い出

印象に残っているのは、高野大工さんと一緒に楽しそうに竹灯ろうをつくっていたシーン。
おんせんキャンパスは、田舎にふくさわやかな風だと感じています。　　石照庭園　堀江研次

地域の方の思い出

おんせんキャンパスのような頼れる場所は、今の時代不可欠だと思います。　藤原茶問屋

地域の方の思い出

印象的なのは、地域の方々との活動が多いこと(味噌づくり、鮎つかみ、石照庭園ライトアップイベント、新市買い物サロンお手伝い)
地域の中で子どもが成長するだけでなく、大人も子どもも学びあえる環境があること。
頼れる職員、地域の方々が身近にいらっしゃることは、本当に心強いなと感じています。また、子どもがイキイキと活動している姿を拝見して、とても安心して子育てが出来るなと感じています。
株式会社ＣＮＣ　宮本裕司

地域の方の思い出

米作り（田植、草取り、稲刈）
笹巻作り、お餅つき、昔と今の遊び、おはぎ作り、などなど沢山の交流に参加できたこと、幸せに思います。数多くの方々との交流を通じて多くの事を学ばせていただきました。荒砂喜久江

多様な背景をもつスタッフ

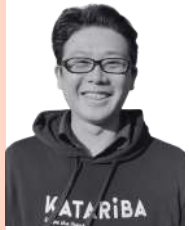
おんせんキャンパスのスタッフは、子どもへの支援の他、ご家族、保護者の方へのサポート、地域内での活動、学校の先生との連携などコーディネート的な業務があるため、多様な背景をもっているスタッフで運営してきました。

①教員経験（小学校、中学校、高校、特別支援学校）
②社会教育スタッフ経験
③心理職：臨床心理士（島根県SCと兼務）
④企業他、勤務経験
・放課後デイサービス
・出版社
・文学作家
・ヨガ教室インストラクター

memory

６年間主にスポーツ活動を担当してきました。日常の授業では異年齢でスポーツがあまり得意ではない子どももいたため、毎回無理なく楽しい内容になることを一番意識して実施してきました。ボールゲームを中心に様々なゲームや缶蹴り、だるまさんが転んだ！等の遊びを取り入れたり、時には玉入れや綱引き、風船バレーなども。黒瀬さんからヨガや体ほぐしの運動をたくさん教えてもらったこともとてもプラスになっています。はじめはスポーツに参加できなかった子どももいつの間にかみんなの輪に入っていました。

開設当初から市内・市外のスポーツ施設に出かけ様々なスポーツや遊びを体験してきました。普通高校生と小中学生が混合チームでゲームをするのはあまり見たことがありませんが、それができるおんせんキャンパスの子どもたちは素晴らしいなと感じています。　大谷弘志



・合宿中に一緒に寝ていた子どもが急に起き上がって「気をつけ、礼、ありがとうございました」と言ってまた寝ていたこと。
・子どもと一緒にバスに乗って帰ったことでバスで行き来する子が増え、おんせんキャンパスのバス停ができたこと。

10年前、生田さんに10年後の井上洋輔は今のままの楽しいお兄さんでいいのか？と言われました。当時と子どもとの関り方は変化していると思いますが、子どもたちからは今でも楽しいお兄さん（おじさん）でいるのかなと思います。そう思っていてほしいです。

多くの人に支えられ、本当に自分自身成長させてもらったと感じています。当時は働くこと、社会人としてのノウハウが全く分かりませんでしたが、みなさんのサポートや10年間の経験でここまで成長できたことに感謝しています。まだまだどんな井上洋輔になっていきたいのか、いくのか、わからないままですが、成長したな、頑張っているなと思ってもらえるようにこれからも走り続けたいと思います。　井上洋輔

地域のイベント、風景、雲南市の職員、大東高校の先生方、温泉、食べ物、おんせんキャンパスのメンバー、子どもたち、バスチャライズ牛乳、雲南に住む雲南を良くしようという大人たち、たくさんの魅力がありました。
長濱雅徳

思い出は、あゆの掴み取りやピザ窯。
立ち上げの頃は手探りで大変なことも多かったと思いますが、その一歩一歩が今日につながっていると思うと感慨深いです。子どもたちの居場所が10年も続き、地域に根付いていることを心から嬉しく思います。　生田裕規

・ベースやギターに興味をもって、一緒に練習していた子が、あっという間に自分よりもうまくなっていくことに、思春期の子どもたちの感受性の高さと「好き」へのエネルギーを感じました。好きなことに夢中になって、それを軸に進学先や生活の場を決めて、初めての一人暮らしにチャレンジしたり、自分で曲を作ったりしている姿に感動しました。
・おやじの会のBBQ、アジゴ釣り、餅つき大会など：いつも保護者会はお母さんが主役の場でしたが、「他のお父さんとももっと話したい」というあるお父さんのつぶやきから、おやじの会が始まりました。イベントの企画から実施まで、大人も楽しむ、本気で楽しませるお父さんたちの姿が印象的でした。

たくさんの方々の苦悩とそれに立ち向かう日々の積み重ね、そこから学んだものを、まだ出会っていない子どもたちや保護者さんたちにうまく使ってもらうのがぼくらの仕事だと思います。かかわってくれる皆様が「地域におんせんキャンパスがあってよかった」「これからもかかわり続けたい」と思ってもらえるように、かかわる子どもたち、保護者さんたちと一緒に学び続けられるように、日々頑張っていきたいです。　西留太郎

・おんせんキャンパスが開校した日に体育館で挨拶した風景は忘れられません。
・第一回の「保護者カタリ場」で保護者の皆様の人生エピソード（サンプリング）を一緒に作らせてもらった時間は自分の人生にとってもかけがえのない時間でした。
・高木先生がおんせんキャンパスに行く途中の橋をダッシュで走っていたシーンも忘れられません。
・竹ちゃんが小さな軽自動車に収まっている姿も忘れられません。

雲南市で過ごした７年間は僕にとってかけがえのない時間でしたし、多くの学びと人生を一生懸命生きることの大事さを教えてもらったので、僕は僕のフィールド（海）で引き続き楽しんでやり続けます！　鈴木隆太

・休み時間になると、すぐ体育館へ行って運動する子が多かった年。バレーを毎日やり続けることでみるみる上達していく姿を見れていたことは印象的だった。自分も本気で子どもたちと過ごした休み時間やサークルの時間は良い思い出。
・フルーツ飴作りに挑戦したこと。最初は失敗の連続。試行錯誤をくり返したことがすごく楽しかった。

印象に残っているのは、子どもたちやスタッフみんなでバレーボールやサッカーなどして遊んだこと。

たくさんの素敵な子どもたち、保護者の方、地域の方々、スタッフや関係者の方々と出会えて嬉しいです。
池田隆史

・三瓶山登山：絶対登ると譲らない大谷さんをサポートしながら最後まで登り切ったこと（まさかのスタッフサポート）。まだ関わって日の浅い子どもと長い時間の共通体験。仲良くなれた。
・合宿：子どもたちが楽しそうだったこと。夜スタッフがお化け役？になって体育館で肝試しをやったこと。
・保護者さん、子ども（高校生）の体験談をたくさん話してもらえたこと、たくさんの方に聞いてもらえたこと。
・スタッフ：行動指針を半年くらいかけてみんなで考えたこと。正解がない中で自分たちの指針を言語化する作業は楽しさも苦しさもあった。

私の考える「支援」とは、誰かに何かを「してあげる」ことではなく、「ともに考え、悩む」ことだと思っています。専門的な知識や経験ももちろん大切ですが、それ以上に、「人として寄り添う姿勢」が支えになると感じています。完璧である必要はない。迷いながらでも、共に歩むことが、子どもや保護者さんにとっての安心につながると信じて、これからも走り続けていきたいと思います。　石飛紫明

memory

不登校とはいっても学校に対する思いは様々で、一人ひとりの思いを確認しながら進んでいけるところを大切にしながらスタッフの一員として頑張っていきたいと思います。振り返る中で行政、学校、地域の方などさまざまな方に支えられている場所だということを改めて感じました。今後も、この人と、この場所と出会えてよかったなと思ってもらえるようなスタッフ、そしておんせんキャンパスでいれるように努力し続けていきたいと思います。　古田千絵

memory

・全国一斉休校となったコロナ禍。休日に池田さんから「来週からすぐにオンライン支援を始めよう！」と電話があり、スタッフ総出で即スタート。やりたいことをすぐに形にできるおんせんの環境と、カタリバの強固な組織体制に驚かされました。

・学校の別室にいる子どもと週2回ほど学習を共にしました。一度もリアルで会ったことはなかったけれど、少しずつコミュニケーションが増え、オンラインでも関係が築けることを実感しました。無事に受験を迎え、高校に通えていると聞いたときは、心からほっとしました。

・サークルや昼休みの時間、子どもたちは工作・イラスト・運動など、自分の「好き」に取り組む姿があります。自分では想像もつかないことを子どもたちがやっている瞬間、この仕事をしていて本当に良かったと思えます。

・「いいじゃん、やってみれば」
スタッフからよくもらうこの言葉。挑戦に優しい、おんせんキャンパスの空気。子どもにも大人にもそんな環境があることが、おんせんキャンパスの強みだと思います。　野々村謙輝

・おんせんキャンパスに来てまず驚いたのは、「スタッフがよく笑ったり、自分のことを話したり、とにかく自然体でいる」ということです。それまで高校教員をしていた私にとって、一番の衝撃でした。この「肩肘張らなくていい」ことは、子どもたちが安心していられる場所としての重要な要素だと気づきました（その中に、スタッフそれぞれの意図や配慮があることも分かっていますが）。

・子どもからの言葉で嬉しかったのは、「こうやって自分の好きなことや興味があることの話をできる所って意外と無いんですよ。もしかしたら、僕にはこういう時間が必要だったのかもしれないですね」という言葉です。いま自分たちがやっていることは間違っていないんだなと実感できたひと言でした。

おんせんキャンパスには、子どもも大人も「立ち止まって考える」時間がたくさんあります。「勉強やりたくないな。どうしよう？」「あの時言われた言葉、何かモヤモヤするんだよな」「この遊び、どうやったらみんなが楽しくなるかな？」「自分はいまの自分をどう思っているんだっけ？」とか・・・。そんな問いに一つひとつ向き合いながら、すぐに答えが出なくても考えてみる。誰かとちょっと話してみる。少し待ってみる。子どもも、大人も、何かに急かされず立ち止まって考えられる「隙間の時間」が必要な時期があるのだと思います。
山﨑光司

夏休み期間の川遊び、ウォーターサバゲーや日々の学び。僕自身、スタッフとして関わらせていただいた期間は短かったですが、池田さんをはじめとするスタッフの皆さん、利用者の子達、保護者の方々に温かく迎え入れていただき、本当に毎日楽しくて幸せな日々でした。　杉原冬郁

・ユースサポートのメンバーと、色んなことに挑戦をしたこと。1人ではできないことをみんなでチャレンジして成し遂げる経験をたくさん重ねることができて、みんなの表情が輝いていたのを覚えています。経験を重ねて、お互いを尊重して、サポートしあえる本当の仲間になっているなと感じていました。
・合宿は同じ釜の飯を食べ、風呂に入り、合宿を経なければ得られない関係性があったと思います。一番楽しかったのはお風呂です！女子トーク楽しかったな♪
不登校の子を持つ親御さんの話を聞くとおんせんキャンパスが全国にたくさんあればいいのにと思うこともしばしば…。おんせんキャンパスに習って、子どもの居場所、保護者の居場所が日本中、世界中に広がるといいなと思っています！　山口美夏

ユースのみんなと一緒にやった文化祭？が一番印象に残っています！バスボム体験や作品展示、バーベキューなどさまざまなコーナーをみんなで準備しましたが、その中でもドミノが大変で正直本番までに完成しないんじゃないかと思ってました。予想に反し？ユースのみんなの粘り（とスタッフや小中学生のみんなの協力）もあって当日は大成功でした。　長門拓郎

ある時、情けないことに、色々と行き詰まり保護者会の席で涙が出てしまったことがあるのですが、そんな時にあるお母さんが、「みどりさんは泣き虫だねー」と、明るく笑いながら背中をさすってくださったことが今でも忘れられません！周りのお母さん達も笑い飛ばしてくださって、改めて元気をいただいていたのは私の方だったのだと気づきました。
私もそんな場面に遭遇した時に、あの時のお母さんのように背中をそっとさすってあげられる人になりたいと今でも思い続けています。松原緑

子どもたちと一緒に計画した納会や季節のイベントももちろん楽しかったですが、日々話をしたり、アナログゲームをみんなでやって楽しんだ毎日。子どもたちの日々の成長に携われることや、チャレンジに一緒に挑戦させてもらえたことが私自身の成長にもなりました。　青木睦

・ユースサポートでの数々の調理実習(涙あり笑いありのプリンづくりや分離したチョコレートづくり)。
・通学合宿での朝麻雀、夜のデュエマ。
・日々の日常でのサークル時間(めちゃくちゃバレーやサッカーしたなぁ笑)。
・ユースの日々の活動の中で笑顔を見せることが多くなった子のこと。
・最終出勤日だったクリスマス会で子どもたちが作成してくれたミュージックビデオ。
・みんなできなくても大丈夫だと安心したおんせん模試。

おんせんキャンパスでの思い出は、今でも鮮明に覚えています。今後も子ども達が元気に、一歩踏み出せる温かいおんせんキャンパスであるといいなと、心からお祈りしております。　本名伸希

入職してもうすぐ半年ですが、おんせんキャンパスは、あたたかい雰囲気で子どもたちが安心して過ごせる場所という印象です。
子どもたちの成長を身近で感じ、私も一緒にたくさんのことを学べることをうれしく思います。
江角敬子

地域の方々が温かく見守ってくださり、共に活動した思い出がたくさんあります。たくさんの活動を地域の方々がここに集う子どもたちを地域の子どもとして大切に育んでくださいました。子どもたちも、おんせんは自然が美しく、安心していれる場所であり、学校や家庭ではできないことができる場所としてとらえています。
そして、なんと言っても、おんせん地区のキャラクター、おろせんちゃんを子どもたちが生み出し地域の皆さんにも広げ伝えていったことは、関わった子どもたちの自信にもつながりました。地域の皆さんと子どもたち、スタッフが共に手を携えて、持ちつ持たれつお互いの生きがいづくりとして、幸せの種まきをしました。巻いた種はそれぞれの心のなかに大切に育くまれていくと思います。　伊田典穂

・２泊３日の通学合宿を終えた後、帰りのバスを待っているときに子どもが「もう１泊とまりたい」といったこと。正直、私は疲れきっていましたが、また、がんばろう！と思える子ども達からの言葉でした！
・ひなたぼっこさんとの合同イベントをした時のこと、おんせんキャンパスの子ども達が自分たちよりも年下の子に優しく接してる姿をみて驚きました。普段とは少し違った様子を見ることができて、子どもの新たな一面を知れた時、感動することがあります。日常の中でも、困っている人に声をかけたり、子ども同士で協力する姿など、ふと子ども達の変化や成長を感じた時、なんだか嬉しくなります。
・おんせんキャンパスに来て、印象的だったことは、『子ども達に還元する』という古田さんの言葉です。自分の気づきや学びを、子ども達との関わりにどう活かしていけるのかを、考えるきっかけをもらえました。日々悩むことも、葛藤することもありますが、最後には”何を子ども達に届けていけるのか”を考え、日々の中での悩みも乗り越えて来られた気がします。
黒瀬麻衣

memory

個別のお菓子づくりで「私でもこんなのできるんだ」とつぶやいた子、好きな恋愛小説のイベントをしてくれた子、ネイルイベントを開催してくれた子、ふるさと祭りでひとり受付に張り付いていた私に紅白餅をもってきてくれた子…。子どもたちが目を輝かせる瞬間や、さりげないやさしさを見せてくれた瞬間一つひとつが私の大事な思い出になっています。

不登校に限らず、人生にこうすればうまくいくという方法はなくて、だれもがだれかの力を借りながら手探りで進んでいく姿が愛おしくてなりません。子どもたち、保護者さん、スタッフのこの先もずっと応援しています。佐々木有子

おろせんちゃん

地域交流活動の中で、子どもたちが地域の特色を学び、温泉地区のマスコットキャラクターを考案しました。「おろち」×「おんせんキャンパス」をかけあわせてできた「おろせんちゃん」です。

雲南市教育支援センター
おんせんキャンパス

おんせんキャンパス
TEL：0854-48-0007
住所：雲南市木次町平田506
Mail：onsen-campus@katariba.net

雲南市教育委員会　児童生徒支援課
TEL：0854-40-1084